

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ヒラソル		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		～ 令和7年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	63名(内兄弟児3)	(回答者数) 55名
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～ 令和7年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域における中核的な役割を担う事業所として、多様なニーズに対応できる支援体制を整えています。個別支援と集団支援を適切に組み合わせながら、利用者一人ひとりの発達や特性に応じた専門的な支援を提供しています。	利用者の発達段階や特性に応じて支援内容を柔軟に調整し、無理なく参加できる環境づくりに努めております。成功体験を積み重ねることで、自己肯定感や意欲の向上につながるよう支援しています。	利用者および保護者のニーズを踏まえた支援内容の見直しを定期的に行い、より満足度の高い支援が提供できるよう改善を重ねていきたいと思ひます。
2	保護者支援を重視し、定期的な面談や日々の情報共有を通して、家庭状況の把握と継続的なサポートに努めております。保護者が安心して相談できる関係を構築し、家庭と連携した一貫性のある支援を実施しております。	日々の記録や職員間での情報共有を徹底し、支援方針の統一を図っております。また、定期的な振り返りやケース検討を行い、より適切で効果的な支援につなげております。	職員の専門性向上を目的とした研修や事例検討を継続的に実施し、より質の高い支援の提供につなげてまいります。また、スーパービジョン体制の充実にも取り組んでいきます。
3	関係機関との連携を大切にし、保育所・幼稚園・相談支援事業所等との情報共有や助言を行っております。支援力向上を意識しながら、利用者を中心とした切れ目のない支援体制の構築に取り組んでいます。	保護者へのフィードバックを丁寧に行うとともに、家庭での関わり方についても具体的にお伝えしております。事業所内だけで完結しない支援を意識し、家庭との協働を大切にしております。	地域の関係機関との連携をさらに強化し、助言や後方支援の充実を図ることで、地域全体の支援力向上に貢献して行きたいと思ひます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者一人ひとりに応じた支援を行っているものの、支援内容や関わり方について職員間での統一が十分でない場面が見られることがあります。	経験年数や専門性の違いにより支援の捉え方に差が生じていることや、日々の情報共有が十分に整理されていないことが要因と考えられます。	定期的なケース会議や振り返りの機会を充実させるとともに、記録様式や情報共有方法の見直しを行い、支援方針の統一と専門性の向上に努めてまいります。
2	関係機関との連携は行っているものの、情報共有や支援のつながりにおいて十分に活かされていない場面が見られることがあります。	連携の機会が必要時に限られていることや、役割分担や情報整理が不十分であることにより、継続的な支援体制の構築に課題があると考えられます。	関係機関との定期的な情報共有の場を設けるとともに、支援経過の記録や引き継ぎ方法を整理し、切れ目のない支援体制の強化に努めてまいります。
3	法人内で食事の提供を行っておりますが、児童の嗜好や発達段階に応じた食事提供が難しく、喫食状況にばらつきが見られることがあります。	児童向けのメニュー調整が十分でないことや、食事形態・味付け・見た目等の工夫が不足していることにより、残食が多くなり、食に関する支援の充実課題があると考えられます。	給食委員会等においてメニュー内容や提供方法の見直しを行い、児童の実態に応じた工夫を検討してまいります。また、段階的な食事支援や関わり方の統一を図り、食への意欲向上につなげてまいります。